



NEWS

2011 No.240

3月号

全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

加速を始めた自動車情報提供サービス

ITSスポットのサービス提供が 全国1600カ所でスタート

緊急情報から観光情報まで多様な情報を提供



自動車向けの次世代情報提供サービス「テレマティクス」の高度化が始まろうとしています。ITSスポットの運用も開始されました。2015～2020年までにさらに高度な情報提供サービスが整備され、安全・快適なドライブを楽しむ時代に向かっていきそうです。



と同じ通信方式のDSRC（スポット通信）を採用し、道路に設置された無線機から自動車に提供します。ビーコン方式のVICSに比べて提供される情報は遥かに高速・大容量で、VICSでは最大200kmでしたが、最大1000kmの道路区間ごとの所要時間データが提供されます。

基本サービスのひとつ、ダイナミックガイダンスでは、広範囲の渋滞データを受信し、渋滞を

避けるルートを選択することが可能になったり、長距離を移動する場合には目的までの所要時間、渋滞情報が提供されたりします。例えば、都心から福島県郡山に向かう場合、東北道経由が早いのか、常磐道を使った方がよいのかなどが画面や音声を通じて知ることができるようになります。

安全運転支援では、先の見えないカーブでの前方渋滞情報や路上落下物の情報を提供し、注意喚起を行います。

さらにITSスポットとETCは同じ通信方式のため、通常のETC車載器としての機能を持っています。この機能をドライブスルーでの料金支払いや駐車場の利用料金支払いに利用できないかということで、実証実験が行われています。また、ITSスポットを経由

してインターネット接続も可能になります。パーキングエリアでの利用に限定されますが、周辺の観光情報や施設情報の取得や一般のインターネットサイトの利用もできます。

サービスは今年1月に首都高速3号渋谷線、4号新宿線、5号池袋線、都心環状線の32カ所で開始、ついで首都高速湾岸線に広がりました。3月中には全国の高速道路で約1600カ所のITSスポットが設置され、サービスが始まります。都高速湾岸線の大黒パーキングエリアなどのパーキングエリア、一部の道の駅など全国約50カ所での利用も可能です。

サービスを利用するには「ITSスポット対応カーナビゲーションシステム」、あるいは音声情報の提供だけになりますが、ETCの新タイプ、次世代型ETC車載器（DSRC車載器）が必要になります。現在、トヨタ自動車、パナソニック、パイオニア、三菱電機、三菱重工の5社が発売しています。

ITSスポットは、機器とコンテンツで市場規模は100兆円という予測もあります。この他警察庁による一般道での安全運転支援サービス「DSSS」のサービス運用も東京都、神奈川県の一部で始まります。また、電気自動車では電池の消耗を監視したり、充電スタンドを知らせたりするテレマティクスサービスが行われています。携帯電話がカーナビなどの車載端末にとって代わるとの見方がありますが、さてどうでしょうか。こらからの5年、10年で自動車搭載される情報通信端末も大きく進化しそうな気配です。

テレマティクスという言葉は「通信 (Telecommunication)」と「情報科学 (Informatics)」とで作られた合成語です。ドライバーをサポートするさまざまな情報を外部から提供し、安全・快適、さらに環境に配慮した自動車交通を実現するものです。テレマティクスというと、これまではトヨタ自動車「G-BOOK」、日産自動車「カーウイングス」、ホンダ「インターナビ」といった自動車メーカーが提供するサービスが中心でした。今回、官製テレマティクスのITSスポットが始まり、新しい段階に移りつつあります。

ITSスポットで提供するサービスは、①ダイナミックルートガイダンス、②安全運転支援、③ETCその他サービスの3種類。ETC

日整連、2010年度の整備業実態調査結果まとめる

総整備売上高は4年ぶり増加も、減少基調は継続

日本自動車整備振興連合会は「2010年度自動車分解整備業実態調査結果」をまとめました。総整備売上高は前年度比(以下同)0.4%増の5兆4869億円と4年ぶりにプラスに転じましたが、総工場数は0.5%増の9万1736工場と増加、整備要員1人当たりの年間整備売上が1.0%減の1377万5千円と低下しているなどの状況で、日整連は整備売上の減少基調は依然として続いていると見ています。

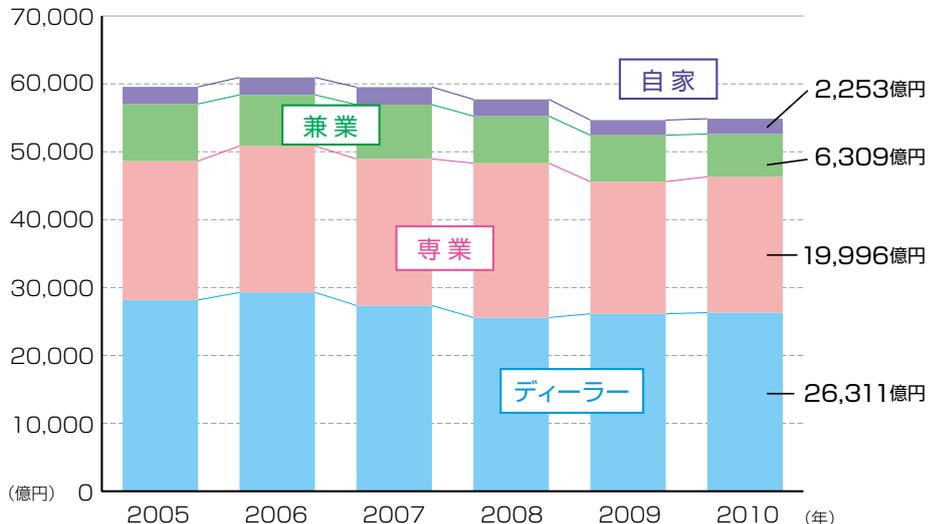
調査は従来、国土交通省が実施してきたもので、今回初めて日整連が主体に行いました。詳細な分析を行い「自動車整備白書」としてまとめることになっています。

工場数の増加は専業で顕著で、3.3%増の5万7182工場となりました。他の業態はすべてで減少、兼業1万4761工場、7.9%減、ディーラー1万6082工場、0.4%減、自家3711工場、1.1%減となっています。企業数は1.6%増の7万4027社になりました。

業態別売上を見ると、専業は1兆9996億円で2.8%増と工場数の拡大に追いつかず、また兼業は6309億円、7.8%減と工場数と同様な落ち込み幅となっています。これに対してディーラーは2兆6311億円で0.7%増、自家2253億円、1.1%増と、それぞれ1工場当たりで見ると売上高を伸ばしています。

業態別・作業内容別の売上高では、専業は車検整備で6.0%増、事故整備で12.1%増と伸ばしていますが、その他整備は6.9%減と落としています。また兼業は車検整備6.4%減、事故整備2.0%減、その他整備11.9%減と全作業内容で前年度比マイナスでした。これに対してディーラーは車検整備1.0%減、その他整備5.2%減と落としましたが、事故整備8.3%増と拡大。金額的なウエートは低いです。ディーラーの定期点検整備は20.1%増の伸びとなりました。ディーラーはメンテナンスパックによる顧客回

業態別総整備売上高の推移



業態別作業内容別売上高

業態	作業内容	車検整備			定期点検整備			事故整備	その他整備	合計	
		2年	1年	小計	1年	6カ月	3カ月				小計
専業	売上高	5,879	3,159	9,038	300	100	280	680	4,339	5,939	19,996
	増減比	6.4%	5.4%	6.0%	▲9.4%	▲14.5%	19.7%	▲0.3%	12.1%	▲6.9%	2.8%
兼業	売上高	2,246	587	2,833	139	25	32	196	1,255	2,025	6,309
	増減比	▲6.5%	▲5.8%	▲6.4%	▲18.7%	▲7.4%	▲22.0%	▲18.0%	▲2.0%	▲11.9%	▲7.8%
自家	売上高	623	226	849	101	20	27	148	531	725	2,253
	増減比	1.6%	21.5%	6.3%	▲11.4%	▲16.7%	▲12.9%	▲12.4%	16.2%	▲9.7%	1.1%
ディーラー	売上高	6,999	1,131	8,130	1,710	184	210	2,104	5,946	10,131	26,311
	増減比	1.8%	▲15.2%	▲1.0%	12.8%	75.2%	60.3%	20.1%	8.3%	▲5.2%	0.7%

(単位:億円、増減比の▲印はマイナス)

い込み、在庫誘導の促進策が成果につながっているという状況です。

また、その他整備は全業態で減少し、合計で6.7%減と作業内容別でも唯一マイナスになっています。景気の低迷が大きく影響しているようで、臨時整備やカスタマイズなどを含む売上の落ち込みは、消費者の支出抑制志向を反映した数値と言えます。

ちなみに整備要員1人当たりの売上高

は、専業969万8千円、0.6%減、兼業1060万9千円、2.3%減、ディーラー2262万2千円、0.9%減と全業態で伸び悩んでいます。

自動車の保有期間は長期化し、修理・整備の機会は増えるものと見られていますが、依然として整備業界は厳しい競争の中にあります。斬新なアイデアで市場を盛り起こすことが求められます。

NGP 今月のCO2削減量

リサイクル部品利用にともなう削減効果

※ NGPをはじめとしたリサイクル部品販売事業12団体は、グリーンポイントクラブを作り、リユース部品、リビルト部品を利用することで達成できたCO2の削減量を利用者の皆様にお知らせしています。ご協力ありがとうございます。



NGP 平成23年1月: **6,470 t**

NGP 1月からの累計: **6,470 t** (全12団体1月からの累計 **11,691t**)

リターナブル梱包材利用にともなう削減効果

※ リターナブル梱包材の利用にともなう削減効果はNGP協同組合独自のCO2排出削減の取り組みです。ダンボールに代えて、専用梱包材を200回繰り返し使用することで削減効果を試算しました。



NGP 平成23年1月: **5.8 t**

NGP 1月からの累計: **5.8 t**

使用済自動車判別ガイドラインまとまる

場面ごとに切り分けて判断基準を示す



使用済自動車判別ガイドラインをとりまとめた産構審、中環審合同会議のワーキンググループ

経済産業省の産業構造審議会環境部会廃棄物・リサイクル小委員会自動車リサイクルワーキンググループ、環境省の中央環境審議会廃棄物・リサイクル部会自動車リサイクル専門委員会が合同で設置した「使用済自動車判別ガイドラインワーキンググループ」が検討結果をまとめました。自動車リサイクル事業者の代表として NGP 協同組合の大橋岳彦理事長が委員として議論に加わりました。

示された使用済自動車判別ガイドラインは、オートオークションなどを含む中古車の流通過程で中古車か使用済自動車なのかを示す「使用を終えた自動車の適正な流通の確保に向けたガイドライン」、地方自治体が放置車両の処理その他取り締まり時の基準となる「不法投棄及び不適正保管事案への対応に向けた使用済自動車判別ガイドライン」の2部構成となっています。

前者が中古車の適正な流通を妨げないこ

とを前提に、違法行為の温床となるような中古車流通を市場から排除するための事例などを提示、その一方で「自主的な取り組みが図られるべき」としたのに対して、後者は不法投棄などの判断基準を示し、行政の取り組みが円滑に行われるための指標を示しました。

放置車両の判断基準としては、自動車の形態に着目した指標として、①自動車の走行に必要な主要部品が取り除かれている、または大きく損傷している、②火災による広範囲な延焼、水没による損傷車両の2点。所有者の使用継続にかかわる意思から見た指標として、③車体番号が削られている、ナンバープレートが外されている、自動車検査証等の書類がない、④所有者の確認ができず、長期にわたり使用の形跡が認められない—ことをあげています。

また、不適正保管に関しては、自動車の状態や継続的使用の意思とともに、自動車とし

て使用することを前提に適切な管理がされているかも判断要素に加えて総合的に判断する必要があるとされました。つまり車両を大量に積み上げたり、外装や内装が汚れたり損壊したりするような状態での保管、山中での保管は中古車として売るための「適切な保管と考えられない」という判断です。こうした状態で保管した場合、いくら中古車だと主張しても行政の取り締まり時には使用済自動車とみなされることとなります。

一方、中古車流通に関連しては、ユーザーから引き取る際に中古車とするか、使用済自動車とするかの判断材料を相手に提示することを求め、具体的に査定価格などの車両の経済的価値やあるいは損傷状態、走行距離などをあげています。さらに「使用済自動車引取依頼書」などによりユーザーに意思確認を実施することも必要だとされました。

オークションに関連しては、▽エンジンミッションが取り外された車両、▽多数の部品が取り外された車両、▽損傷状況が大きい、▽自走行不可能車両、▽広範囲で延焼している車両—といった事業者の自主基準として出品を断っている事例を具体的にあげるなどしていますが、同時に関係者間で「自主的な認識の共有化を進めることが必要」としています。中古車流通にかかわるガイドラインは取り締まりに直結するわけではありませんが、ビジネス関係を適正、円滑にする事業者間の努力を求めていることが特徴です。

ガイドラインをめぐる議論の中で引取業者としての説明責任の重要性も指摘されています。重量税の還付の問題を始め不明な点があれば、全国の NGP 協同組合員に相談いただければ幸いです。

アンケートへのご協力ありがとうございました

ご意見を糧にNGPのサービス向上を果たします

昨年11月に実施しましたアンケート結果がまとまりましたのでご報告いたします。アンケート回収にご協力いただきました NGP のお客様、並びに BS サミット、あいおいエコパートナーの皆様、ご協力誠にありがとうございました。

おかげさまで「リサイクル部品に対する意

識・利用に関するアンケート調査」は25.6%という高い回収率となり、事業改善・サービス向上に向けて大変貴重なご意見をいただきました。また NGP のお客様でリターンブル梱包材の利用実績があった500社の皆様を対象に実施した「リターンブル梱包材に関するアンケート」も33.8%の回収率となり、

業務の改善に役立つご意見を多数お寄せいただきました。大変感謝しております。

こうしたアンケート結果を踏まえ、NGP 協同組合は課題を整理して、リサイクル部品の品質向上を図り、ファーストコールをかけてもらえる存在感、信頼感を得られるよう目指したいと考えています。ASSY 部品の部分対応や品質と価格の問題など、ご意見をいただいたさまざまな点に関しまして早急に検討し、さらに NGP の部品をお使いいただけるよう新たな戦略構築を進めてまいります。今後ともご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

業界紙誌記者との記者会見・懇親会を実施

リサイクル部品の利用意識アンケートの調査結果を公表



注目度の高いアンケート結果を取り上げた記者会見

NGP 協同組合の大橋岳彦理事長ら執行部による記者会見・業界紙誌記者との懇親会が2月4日に開かれました。記者会見は東京都港区の本部で実施、全国中小企業団体中央会の活路開拓事業で実施した「リサイクル部品に対する意識・利用に関するアンケート調査」および「リターナブル梱包材に関するアンケート調査」の結果報告を行い、意見交換をしました。

また第2部として場所を移し、親睦を深めながら業界紙誌記者から忌憚のない意見を聞く場を設けました。

リサイクル部品の利用に関して整備事業者の皆様を対象に本格的な利用意識調査をしたものはこれまで例がなく、会見に出席した業界紙誌記者も高い関心を示していました。調査結果からは、中古部品の取引回数が多いのは NGP 組合員などの中古部品

商で全体の7割弱に達していること、仕入れて重視する点は「商品が安心」、「価格と品質のバランス」の順だったことが改めてわかり、NGP が供給するリサイクル部品に対しては、品質が高いと認識されている点などが分かりました。

またリターナブル梱包材に関しては、従来の段ボールによる梱包と比べて「輸送事故が少ない」、「段ボールは廃棄が面倒」、

「環境に良い」という回答順となり、利用者側から高い評価を得ていることが分かりました。こうした調査結果に大橋理事長は「多くの回答をいただいたことに感謝する。寄せられた声を受け止めてリサイクル部品のさらなる拡大に結び付けたい」と記者会見で述べており、これらを含めて業界紙誌が報道、NGP のブランド浸透につながりました。

懇親会では率直な意見交換を行うことができ、これらを NGP ブランドの強化やさらなる成長につなげていきたいと考えています。



懇親会では参加者と率直な意見交換を行った

NGPグループウェアの整備完了

全体のスケジュール管理などで組合業務の効率化を達成します

全国中小企業団体中央会の2010年度補助事業で進めてきました NGP ネットワークシステムの開発が完了し、グループウェアを構築いたしました。グループウェアは、142 組合員 202 拠点、および理事会、委員会、経営者月例支部会などの各会議と情報共有密度を高め、組合業務を効率アップするためのツールとなるものです。

グループウェアの基本システムは「スケジュール管理」「文書管理」「申請業務(ワークフロー)」で構成しています。

スケジュール管理は、個人の月間スケジュール、理事会メンバーのスケジュー

ル、NGP 年間スケジュールおよび会議室の空き状況の確認が可能になります。これまで毎月末に翌月分の予定表をメールで送っていましたが、グループウェアを通して全理事・委員長のスケジュールがリアルタイムで公開できるようになりました。年間スケジュールのメニューでは、種々の研修会や総会などの組合事業の情報が確認できます。

また例えば、従来メールや FAX で行っていた総会への参加確認などの集約業務も、グループウェア内に設けたアンケート機能で回答・集計できるようになりました。



このほか、各会議の議事録に関してもグループウェアを通じて取りまとめることとなります。これが文書管理機能で、効率的で正確な議事録をすばやく作成し、閲覧できるようになります。また、申請業務ではこれまで書面手続きで行っていた旅費精算の事務についてグループウェアを通じて行うこととなります。

グループウェアを通じて NGP 組織内の情報共有を進め、業務改善を図り、積み上げた改善成果をさらなる NGP 品質の向上や次世代自動車へ対応した部品生産技術の蓄積などへとつなげたいと考えています。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL: 03-5475-1208 FAX: 03-5475-1209
http://www.ngp.gr.jp

株式会社 NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL: 03-5475-1200 FAX: 03-5475-1201
http://www.ngp.co.jp